

「二俣尾・武蔵野市民の森事業」と 「奥多摩・武蔵野の森事業」が表彰されました

武蔵野市による東京の森林保全・活用のために取り組んでいる活動が、11月18日に武蔵野の森総合スポーツプラザで開催された森林・緑の祭典「第42回全国育樹祭」で二つの賞を受賞しました。

森林の持つ恵みを享受している都市部の自治体として、市民の森林に対する関心を高めることや、荒廃から森を守るために、市が取り組んでいる事業「二俣尾・武蔵野市民の森事業」と「奥多摩・武蔵野の森事業」。これらの活動に対し功績が認められ、全国育樹祭において、森林整備・森林保全部門の「東京都緑化等功労者」と、ふれあいの森林づくり優良市町村等の「国土緑化推進機構会長賞」として表彰されました。「全国育樹祭」とは、天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れされる育樹活動のシンボルの行事で、昭和52年から毎年秋に開催されています。開催当日、市からは松下玲子市長が出席し、皇太子ご夫妻ご臨席の下、表彰していただきました。



表彰状を受け取る松下玲子市長

武蔵野市が行っている取り組み

現在、多摩地域の森林では手入れが行き届かず、森林の荒廃が深刻化しています。増えすぎたニホンジカによる食害によって植栽木などが食べ尽くされる

と、森林の砂漠化や、土壌の流出による土砂災害が発生してしまいます。武蔵野市の水道水は地下水が多くを占め、森林などで浸透した水が流れてきたもの

です。森の恩恵を受けている私たちは森に対する認識を深め、行動していかなければいけません。そういった思いから、この取り組みがスタートしました。

二俣尾・武蔵野市民の森事業

平成13年～

森を守ることの大切さや自然環境保全に対する意識を高めるため、小・中学生を対象とした森林体験教室や、森の恵みを体験できる「森の市民講座」など、大人から子供まで楽しめるさまざまな森を活用した事業を行っています。



苔玉づくり



森の散歩

奥多摩・武蔵野の森事業

平成16年～

土壌を保持する樹木や下草が失われたことで、降雨のたびに土砂流出や山崩れなどの被害が発生しました。このことを受け、広葉樹を植栽し、シカ進入防止柵などを設置。森林保全により、豊かな森へと生まれ変わりつつあります。



平成17年度



平成29年度